

# 気候変動がカキ早生・中生品種に与える影響

カキ‘富有’では、夏秋期の高温により果皮の着色が遅れ、収穫時期が遅延することに加えて、果実肥大が停滞する果実生長第2期の長期化によって、収穫時の果実重が小さくなる傾向がみられます。一方、‘富有’以外の品種でも収穫期の遅延傾向は認められるものの、‘富有’ほど顕著な着色不良はみられません。そこで本研究では、気温上昇が早生・中生品種である‘早秋’および‘松本早生富有’の収穫時期や果実品質に及ぼす影響を明らかにすることを目的として、センター内の基準木における多年次の調査データを用いて重回帰分析を行い、将来の動向を予測しました。

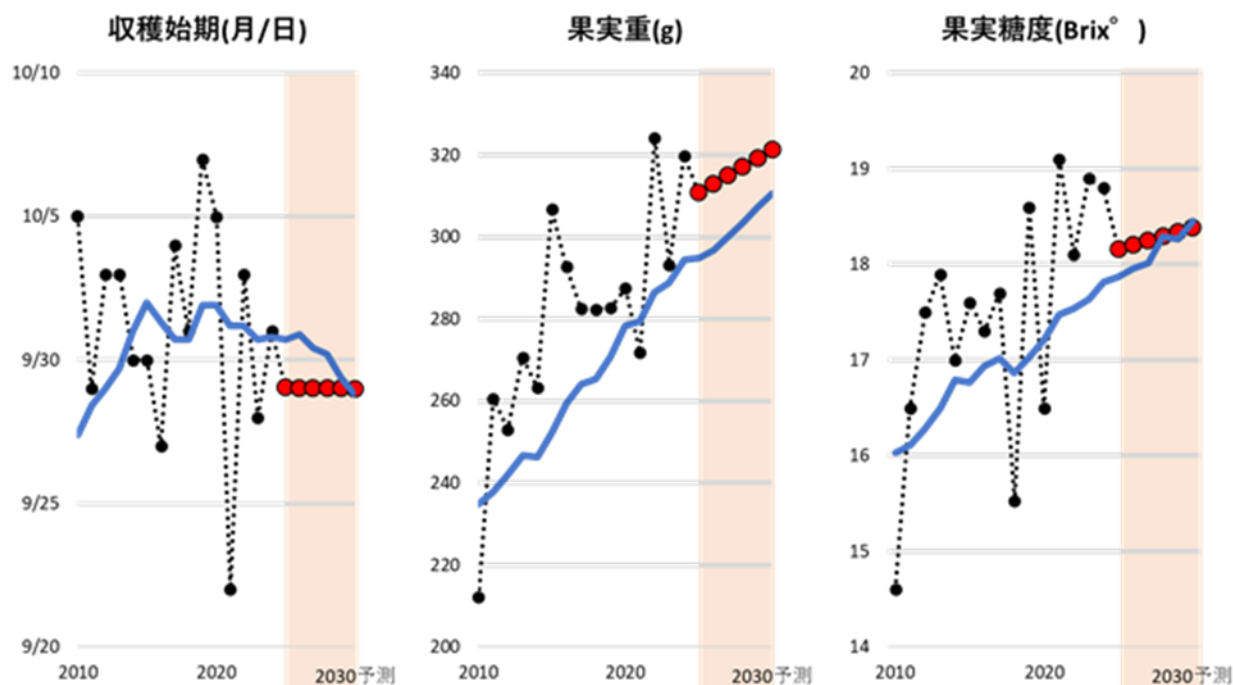


図1 カキ‘早秋’の収穫始期、果実重及び果実糖度の推移と今後の予測

## (研究成果)

- ‘早秋’では、収穫始期は8月の気温と正の相関、4月および6月の気温と負の相関を示しました。果実重は5月・7月・9月の気温と、果実糖度 (Brix) は3月・10月の気温とそれぞれ正の相関が認められました (データ略)。
- ‘松本早生富有’では、収穫始期は7月・8月・11月の気温と正の相関を示しました。果実重は3月の気温と正の相関、8月の気温と負の相関を示し、果実糖度は5月・6月の気温と正の相関を示しました。収穫始期と果実重の傾向は‘富有’と類似していました (データ略)。
- 得られた回帰式を用い、IPCCにおけるRCP8.5シナリオに基づき年あたり0.04~0.05°Cの上昇を仮定した将来予測では、温暖化の進行により‘早秋’は収穫始期に大きな変化はなく、果実重と糖度が増加すると予測されました。‘松本早生富有’や‘富有’とは異なる傾向を示し、品種間差が確認されました (図1)。